株式市場新聞
www.marketpress.jp
2022
11/28
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒541-0058
大阪市中央区南久宝寺町３丁目２-７
TEL 06-6105-1904

日経平均株価
２万８２８３円０３銭
▼１００円０６銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
２０１８．００
▼０．８０（前日比）

年末ＩＰＯラッシュ始る

将来性高ければセカンダリーも

１２月は**サイフューズ**（東証グロース・４８９２）を皮切りに２０銘柄の新規上場（ＩＰＯ）が控えており、年末恒例のＩＰＯラッシュがスタートする。今年も１日あたり３社同時上場が控えており、供給過剰とのネガティブな指摘もあるが、マーケット全体に大きな売り材料がない限り、短期資金がグロースへ流れ込むことで小型株の値動きが良くなる傾向が強い。既に直近公開銘柄で急伸する銘柄がでており、将来性が高いＩＰＯのセカンダリーも狙い目だろう。

スカイマークの初値は？

年末ＩＰＯでは過去に**日本郵政**（６１７８）と**かんぽ生命**（７１８１）、**ゆうちょ銀行**（７１８２）の郵政グループ３社、**ソフトバンク**（９４３４）など大型上場が行われたケースが多いが、経済活動正常化の象徴として今年の**スマイマーク**（９２０４）の再上場が最大の目玉となろう。スカイマークは２０１９年１０月に上場を申請して、その後、コロナ禍での業績悪化で断念した経緯がある。派手な値動きは期待できないが、公開価格を上回る初値形成となれば、インバウンド関連全般にも好影響をもたらしそうだ。

人気化が予想されるのは２０日上場の**ｍｏｎｏＡＩｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ**（５２４０）でメタバースプラットフォーム「ＸＲ ＣＬＯＵＤ」の運営を手がける。この他ではレンタルスペース予約プラットフォーム「インスタベース」などのサービスの提供を行う**Ｒｅｂａｓｅ**（５１３８）や中古住宅再生と戸建住宅を手がける１３日上場の**ｐｒｏｐｅｒｔｙｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅ**（５５２７）、転職・就職のための情報プラットフォーム「Ｏｐｅｎ Ｗｏｒｋ」の開発・運用業務を含むワーキングデータプラットフォーム事業を行う**オープンワーク**（５１３９）、コーチングによる組織開発事業とコーチング人材育成事業を行う**コーチ・エィ**（９３３９）が注目される。

今年末も同時上場が多い

日経平均の日足チャート

11月第3週の動意銘柄

平田機工ストップ高

23年3月期上方修正で増配

週明け14日、**平田機工**（6258）がストップ高。23年3月期の業績予想について、連結営業利益で30億円から35億円（前期比29・7％増）へ上方修正、期末一括配当を50円から85円（前期65円）へ引き上げた。原材料価格や物流費用の高騰などの影響はあるものの、売上原価の低減努力や予定していた研究開発費を含む管理間接部門の各プロジェクトの見直しなど販管費の抑制策に注力した。

ツバキナカシマ利益下振れ

ツバキ・ナカシマ（6464）が急落。22年12月期の業績予想連結売上収益で770億円から780億円（前期比1・3％増）へ、営業利益で56億5000万円から41億円（同27・4％減）へ修正した。原材料価格高騰に対する販売価格への転嫁と円安効果により売上収益は当初予想を上回る一方、原材料とエネルギーコストのさらなる高騰の影響などにより利益が伸び悩んでいる。

EDPは大幅増額

イーディーピー（7794）がストップ高で最高値を更新。23年3月期の単体決算予想について、売上高を27億1900万円から30億9800万円（前期比98・3％増）、営業利益を9億4000万円から13億6500万円（同2・6倍）へ大幅上方修正した。

日医工スクイーズアウト

15日、**日医工**（4541）がストップ安。投資ファンドのジェイ・ウィル・パートナーズが管理・運営する合同会社ジェイ・エス・ディーを割当先とする払込金額総額200億円の第三者割当増資とともに株式併合を発表、スクイーズアウト（少数株主の持つ株式を強制的に買取る）を1株36円で行うとしており、処分売りが殺到した。同社は来年3～4月に上場廃止となる。

KPPG大幅上方修正

KPPグループホールディングス（9274）がストップ高。23年3月期の業績予想について、連結売上高で5900億円から6500億円（前期比15・4％増）、営業利益で120億円から210億円（同2・2倍）へ大幅に上方修正した。欧州を中心にペーパー事業で数次にわたる価格修正が行われたことや、前年と比較して為替が円安に推移した影響がでている。

公開価格59％上回る

POPERの初値

POPER（5134）が東証グロース市場に新規上場、公開価格700円を58・6％上回る1110円で初値が生まれた。教育事業者などのバックオフィス業務の効率化、保護者とのコミュニケーションを強化するSaaS型業務管理プラットフォーム「Comiru」の開発・提供を行う。

公開価格11％上回る

ベースフードの初値

ベースフード（2936）が東証グロース市場に新規上場、公開価格800円を11・3％下回る710円で初値が生まれた。同社は完全栄養食の開発・販売を行う。

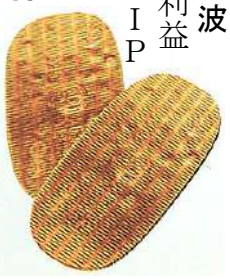
正直じいさんの株で大判小判

小型グロースの噴き値狙い

前週の東京市場は反発しました。日経平均は週間で383円上昇、前の週の下げを埋め底堅く下値を切り上げています。FOMC議事録や指標から米利上げペース減速へ期待が一段と高まり、休日明けの24日には日経平均は2万8500円に乗せる場面があり、TOPIX000ポイントの大台を回復しました。米ハイテク株高を受け半導体関連などを中心に買いが広がり、個別株物色が盛り上がりました。

今週は週末に発表される米雇用統計が最大の関心事ですが、前回までとは違いインフレピークアウトにつながる内容かを確認することになり、売りづらく逆に買戻しが先行する可能性があります。前週は**マイクロ波**（9227）を高値圏で利益確定しましたが、年末のIPOラッシュに向け引き続き小型グロースの噴き値狙いです。

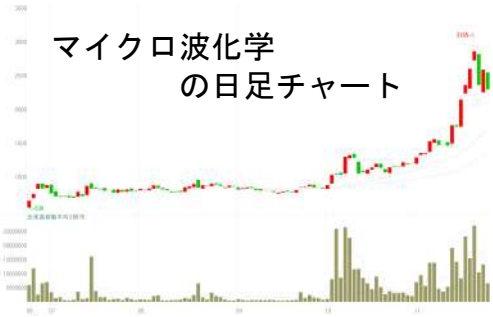
花咲 翁



マイクロ波S高新値追い

炭素繊維製造実証設備供給

16日、**マイクロ波化学**（9227）がストップ高で連日の最高値。**三井化学**（4183）とマイクロ波による炭素繊維製造用実証設備供給契約を結んだと発表した。三井化学名古屋工場内に導入する実証設備の一部として、耐炎化工程と炭化工程からなる炭素繊維焼成ラインの機器一式を設計・製造して供給する。三井化学から対価として総額7億6800万円を収受する。



ハーモニク大株主売却

ハーモニック・ドライブ・システムズ（6324）が急落。9・64%を保有する大株主の**ナブテスコ**（6268）が916万2200株全株を売却したと発表した。売却先の野村證券とJPモルガン証券では、時間をかけて市場で売却することを基本とするとしており、上値圧迫要因として意識された。

プレイドは変貌期待

プレイド（4165）が一段高で年初来高値更新した。Webサイト・アプリの顧客分析プラットフォーム「KARTE」を展開、23年9月期は売上高で前期比16・8%増の85億2300万円と大幅増益を見込んでおり、業績本格拡大を期待した買いが入った。連結化したエモーションテックも計画を大きく超える成長を実現している。

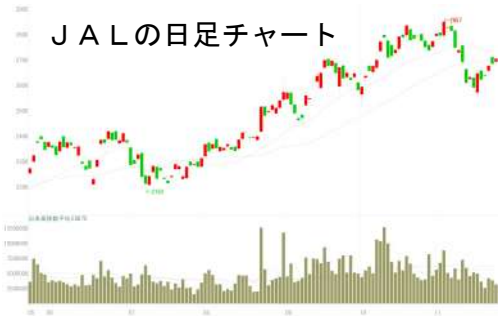
半導体利益確定売り

17日、**レーザーテック**（6920）が大幅に続落、2万7000円台を割り込んだほか、**東京エレクトロン**（8035）や**アドバンテスト**（6857）など半導体連が総じて米長期金利低下に伴い半導体セクターは出直り基調を強めてきたが、マイクロンテクノロジーが半導体ウエハー減産を発表したことを受け大きく売り込まれ、SOX指数が4%を超える下げとなり、当面の利益を確定する売りが優勢になった。エヌビディアも一株利益が市場予想を下回った。

インバウンド高い

10月訪日外国人数倍以上

17日、JAL（9201）やJR東海（9022）の空運・陸運、高島屋（8233）など百貨店、エイチ・アイ・エス（9603）、エアトリ（6191）の旅行株などインバウンド関連が高い。10月の訪日外国人客数が49万8600人と前月から倍以上に伸び、前年同月比では22・5倍に急拡大。



水際対策の大幅緩和により、旅客や小売り、レジャーなど国内消費の本格的な回復が期待された。

ヤーマン大幅上方修正

ヤーマン（6630）がストップ高。23年4月期の業績予想について、第2四半期累計の連結売上高で220億円から265億6800万円（前期比27・1％増）、営業利益で44億円から53億6700万円（同36・7％増）へ大幅に上方修正した。中国国内向け販売が想定以上に好調。

ミクニ印でシステム受注

週末18日、ミクニ（7247）がストップ高。インド現地法人のMIDが現地主要二輪車メーカーのBALから燃料噴射システムを受注、10月から生産を開始したと発表した。MIDはBALのほか数社への供給が見込め、26年には現在の約3倍に伸長すると予測している。

Aimingは急落

Aiming（3911）が急反落。共同開発先のスクウェア・エニックス・ホールディングス（9684）の新作開発をめぐるインサイダー取引でスクエニ元社員を新たに逮捕したと伝わった。

11月第4週の動意銘柄

TDCソフトが急伸し最高値

週明け21日、TDCソフト（4687）が急伸、最高値を更新した。NTTデータ（9613）が18日、11月から正式に「統合バンキングクラウド」の提供に向けた検討を開始したと発表表下ことを受け、NTT傘下のSI専業最大手で省庁、金融機関に強く、豊富な実績を持つ同社株に思惑買いが入っている。統合バンキングクラウドは、高度な信頼性が求められるバンキングシステム専用の国産の超高SLAクラウド。

ラクオリア上方修正

ラクオリア創薬（4579）が急反発。容疑者は「ドラゴンクエストタクト」に関する重要情報を知り、発表前にAiming株式約1万株を280万円で買い付けたとしている。22年12月期の業績予想について、連結営業利益で4億2000万円から8億2400万円（前期比16・5％増）へ上方修正した。P2X7受容体拮抗薬の第Ⅱ相臨床試験開始によるマイルストン収入を見込む。

バンクオブイノS高

バンク・オブ・イノベーションがストップ高。今年9月に発行した大和証券を割当先とする第三者割当による第9回、10回新株予約権について、行使停止期間を延長すると発表したことを受け需給懸念が後退、短期資金が流入した。

転ばぬ先のテクニカル

内需型高配当銘柄を攻める

先週の東京株式市場は反発しました。今月11日高値以降は狭い範囲でのもみ合いとなり、上下どちらに放れるのかが最大の関心事でしたが、先週公表されたFOMC議事録で大半のメンバーが次回会合では利上げ減速を支持していたことが明らかになり、上放れとなりました。

何よりも日経平均の先んじる形でTOPIXが8月高値を更新。年初来高値が視界入りし年末高に向けてのトレンドが見えてきました。

ドル円にピークアウト感が出てきたことで物色の流れが変わりつつあります。NT倍率が急低下しており、時価総額の大きいTOPIX型銘柄が人気化しつつあります。

業種別指数をみると建設、銀行、保険が年初来高値を更新。鉄鋼、不動産も高値更新間近に迫っています。いわゆる内需型の高配当銘柄が物色の中心になりつつあるということです。**日々勇太朗**

調整後に一段高想定

高野恭壽の株式情報 これでどゃ!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

三菱重など上値追いへ

日経平均は年末で3万円復活の可能性が高いとみています。日本の景気はコロナ禍でほんろうされていましたが、ようやく規制が解除されて百貨店や交通機関はじめ外食、ホテル、小売りが軒並み回復基調を強めました。また、半導体不足が次第に解消し、製造業の回復しはじめました。円安による原材料のアップも価格転嫁が進み、次第に関連企業も回復しはじめました。

11月末までに2万8600円の9月9日の高値を突破し2万9000円の近くまで戻した後、12月に入って米国のCPI（消費者物価指数）の発表やFOMC（連邦公開市場委員会）の接近で警戒感が強まり、一旦、調整して2万8000円割れ水準まで押すと予想されます。その後は米国の金利動向の圧力も弱まることや米国のクリスマス需要の堅調さをみて12月月末までに3万円台に乗せて2022年の相場は終えると考えています。

かねてから推奨してきた**三菱重工**（7011）やJR系などは仕上げの段階で、上値を追う可能性があります。三菱重工は政府が防衛投資に積極姿勢ですので、6月高値5600円台を奪還するでしょう。**エーザイ**（4523）は7000円台で紹介しましたが、ついに目標の1万円が目前に迫りました。世界初の本格的アルツファイマー認知症治療薬の「レカネマブ」が米国で承認される見通しが強まったことで発売後には世界で2000億円以上の巨大医薬品に育つ可能性がありそうです。

高野恭壽（たかのやすひさ）**氏**　株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。
公式ホームページ
https://marketpress.jp/kabu-takano/

SOMPOHDは急落

発生保険金想定超で大幅減額

21日、**SOMPOホールディングス**（8630）が急落。18日の取引終了後に発表した23年3月期第2四半期累計の連結決算は、経常損益236億1500万円の赤字（前年同期1905億9600万円の黒字）に転落、通期予想を2350億円の黒字から1150億の黒字（前期比63・6％減）へ大幅に下方修正したことを嫌気した売りがかさんだ。

SOMPOHDの日足チャート

損害保険ジャパンでは、自然災害、コロナウイルス感染症拡大、自動車の交通量回復などの影響により発生保険金が前回予想を上回る見込み。

電力株が全面高

22日、**東京電力ホールディングス**（9501）をはじめ大手電力株が全面高、電力・ガスセクターが業種別上昇率トップに立った。国の認可が必要な一般家庭向け電気料金の値上げ申請を月内にも行う方向で調整に入ったと伝わった。23年4月以降の値上げを目指し、6電力会社が規制料金の値上げを検討しており、値上げ幅は10％以上になる見通しで、収益改善期待から買いが広がった。

Waqoo成長期待

Waqoo（4937）がストップ高。23年9月期は連結営業利益で1億1500万円の黒字（前期4000万円）を見込んだことが引き続き注目を集めた。医療法人のマーケティングコンサル、医薬品・化粧品などの企画、販売と斡旋などを行うSBCメディカルグループとの業務提携と新事業を開始することから成長期待も高い。

公開価格37％上回る

ティムスの初値

ティムス（4891）が東証グロース市場へ新規上場、公開価格670円を37・2％上回る919円で初値をつけ、その後ストップ安の769円売り気配。医薬品、医薬部外品、医薬品原材料、医療用機器と医療用消耗品を研究・開発する。

特選銘柄

日本精線（5659）

半導体関連向け高水準

超精密ガスフィルターNasclean拡大

日本精線（５６５９）はステンレス鋼線のトップメーカーで、ナスロン（金属繊維）などの高機能製品や高合金ワイヤなどの独自製品を供給している。

１０月２７日に発表した２３年３月期の第２四半期累計（４～９月）は、連結売上高で２４７億１２００万円（前年同期比１５．４％増）、営業利益で１９億４２００万円（同１８．５％減）、純利益で１４億１６００万円（同１８．６％減）となった。半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（Ｎａｓｃｌｅａｎ）や太陽光発電パネルなどの製造プロセスで使用される極細線に代表される高機能・独自製品に対する需要の強さが継続したものの、第２四半期に入りニッケルをはじめとする資源の価格高騰に対し販売価格改善の発現の遅れが生じたことが利益を押し下げている。

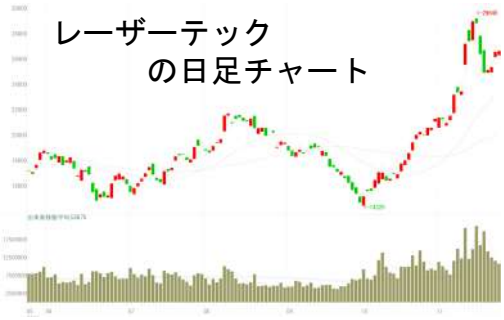
通期に関しては売上高４８５億円（前期比８．３％増）、営業利益４４億円（同４．３％減）、純利益３０億８０００万円（同３．１％減）の従来予想を据え置いている。金属繊維においてはパソコンや家電に関する巣籠り需要は一巡するも、第５世代移動通信システム（５Ｇ）の立ち上がりやデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の普及によりデータセンター向けの半導体の需要が高水準で推移していることに加え、車載用半導体不足の状況が解消されていないことから今後も高水準の伸びが期待される。

５Ｇ立ち上りＤＸ普及

半導体関連大幅高

長期金利低下でSOX上値志向

休日明け２４日、**レーザーテック**（６９２０）が売買代金トップで続騰したほか、**東京エレクトロン**（８０３５）や**アドバンテスト**（６８５７）など半導体関連株が大幅高。ＦＯＭＣ議事要旨やクリーブランド連銀総裁のハト派発言などを受けて金融引き締めペース減速期待が高まり、米１０年債利回りが３・７％台に低下、前日の米国市場でＳＯＸ指数が上値志向を強めるなど、海外ハイテク・グロース株人気が東京市場にも波及した。



カルナバイオ稀薄化懸念

カルナバイオサイエンス（４５７２）がストップ安。Ｃａｎｔｏｒ Ｆｉｔｚｇｅｒａｌｄを割当先に第三者割当による新株予約権（行使価額修正条項付）を発行すると発表したことを受け、稀薄化と需給圧迫を懸念した売りが殺到した。発行総数は計３万３８６５個で、希薄化割合は２４・７８％におよぶ。差引手取概算は２７億７９１２万円で臨床試験費用などに充当する。

タムロン大幅増配

タムロン（７７４０）が４連騰。２２年１２月期の期末配当予想を修正、５７円から８５円（前年同期５７円）へ大幅に引き上げることを発表した。

タカトリは変貌期待

週末２５日、**タカトリ**（６３３８）がストップ高。Ｓｉの限界を超えるパワーデバイス用材料として期待されているＳｉＣの材料切断加工装置の有力企業で業容変貌期待が高まった。１１月３０日から開催される「ＪＡＭＡ ２０２２ ＯＳＡＫＡ 国際アパレル機器＆繊維産業見本市」では高速自動裁断機ＴＡＣ-１７５ＶＮを出展する。

マツモトWeb3.0事業

マツモト（７９０１）がストップ高。Ｗｅｂ３・０事業についてパートナーと来年初めにサービスを開始する準備を進めていると発表した。

さらに底堅い動き

素材株など大底圏の銘柄を

相場展望

光世証券
取締役　西川 雅博 氏

１１月１～２日のＦＯＭＣ議事録によると、多数の理事が「利上げペースの鈍化が間もなく適切になる」との見方をしているという。先に発表された１０月のＣＰＩ伸び率も予想を下回り、株式市場ではリスクオンの背景を確認出来たとしてポジティブな反応が見られる。ただ、Ｓ＆Ｐ５００は１１／２のＦＯＭＣから現在（１１／２４）まですでに７％強値上がりしていることは考慮すべきだ。依然金融当局は株価上昇によるインフレ圧力再燃を警戒する姿勢だろう。

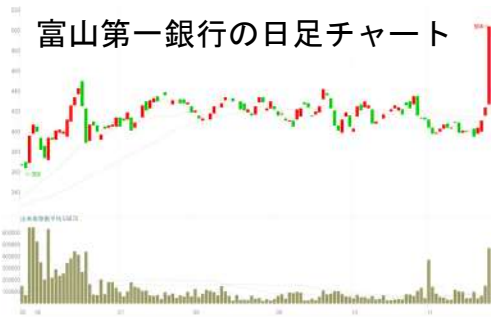
６月以降米国株式市場は、「インフレ懸念による金融引き締め加速」と「インフレピークアウトや景気悪化懸念による引き締めペース鈍化」という対極の見方で揺れ動いてきた。具体的には、約２カ月上昇し次の２カ月で下落、現在はハト派が優勢で１０月中旬からの上昇局面にある。ボックス相場が形成されるのは、金融不安の兆候が見られずＦＲＢの金融政策と市場の自律調整が機能しているからだろう。グローバル経済を取り巻く環境に大きな変化がなくパターンが踏襲されれば、次のピークは１２月中旬になり、さらに先のボトムは春先となる。少なくとも、年末から年明けにかけてリスクオンが継続するためには、ウクライナ情勢など従来の延長線上ではない買い要因が必要となろう。

実際、過去５回の米国利上げ局面とＮＹダウの動きを検証すれば、最終利上げまでの半年間は概ね保ち合いになるケースが多いようだ。大きく上昇するのは最終利上げ後、金融引き締めがピークアウトしてからである。現在のところ今回の引き締めは来年前半５月頃までとの予想が大勢のため、それまでは上値が重い展開が想定される。来年に向け米国ではインフレが鎮静化し景気の大幅失速は回避出来ると見ているが、テック企業の急落や仮想通貨の混乱の影響と共にそうした方向を市場が確認するにはある程度の時間が必要と考える。

新年に向け日本株はそうした米国株の動きに連動しながらもさらに底堅い動きが期待できそうだ。原材料高や円安によるコスト高で収益圧迫にさらされている企業を含め、日経平均の今期予想ＰＥＲは１３倍程度である。足元ではコスト高がやや沈静化する動きが見られ、素材株などは大底圏にあり環境好転に対する株価へのインパクトは大きい。セクターとしては下値不安の乏しい化学・セメントとデフレ脱却をテーマに不動産・商社・金融など。個別では**三菱ケミカル**（４１８８）、**ＴＯＹＯＴＩＲＥ**（５１０５）、**太平洋セメント**（５２３３）。

富山第一ストップ高

著名個人投資家大株主入り



２５日、**富山第一銀行**（７１８４）がストップ高。関東財務局に提出した四半期報告書の「大株主の状況」で、著名個人投資家の井村俊哉氏が入ったことで思惑買いを集めた。井村氏は２０１９年にＹｏｕＴｕｂｅｒマネジメント会社のＺｅｐｐｙを起業、２０２１年には９億円で**三井松島ホールディングス**（１５１８）を５％超保有し話題となった。

電通Ｇ家宅捜索

電通グループ（４３２４）が大幅反落。東京地検特捜部と公正取引委員会が東京オリンピック・パラリンピックのテスト大会に関連する事業を巡る談合疑惑で、同社などへの家宅捜索に乗り出したと伝わった。電通グループを含む広告会社などが落札したとされている。

公開価格の２倍超

ｔｒｉｐｌａの初値

ｔｒｉｐｌａ（５１３６）が東証グロース市場に新規上場、公開価格８００円の２倍超となる１６２０円で初値が生まれた。宿泊施設などに対する公式サイト予約システム「ｔｒｉｐｌａＢｏｏｋ」、ＡＩチャットボットシステム「ｔｒｉｐｌａＢｏｔ」などのサービスの提供を行う。

チャートから読む騰落銘柄

Ｉ－ｎｅ（4933）

１１月１４日に５５７０円の年初来高値更新後に調整していたが、２５日と５０日線手前である５０００円トビ台では下げ止まる動き。１１月３０日の１対２の株式分割後の再度の上値追いに期待。

坪田ラボ（4890）

日足陽転のあと７５日線上抜き、短期急騰局面迎える。眼科治療と脳活性化に強いバイオベンチャーで今期売上、利益倍増と成長ステージへ。鋭角的に上昇する５日移動平均をフォローに目先２０００円目指す。

レオパレス21（8848）

１１月１５日に２７６円まで下落したあとは３００円台まで戻しているが５０日線は抜けれず上値は重い。賃貸住宅では入居率の上昇期待はあるものの、１０００万株超の買い残も重石で上値は重い。

東芝（6502）

６月に年初来高値５９３８円を付けてから、戻り売りに押され下値切り下げる。日足陰転後も下げ止まる気配なく、買収総額引き下げ報道が痛手に。押し目買いに積み上がった信用買い残が重荷で一段安を警戒。

※チャートは日足

星野三太郎の株街往来

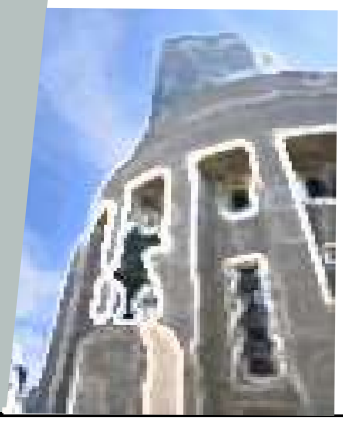
～コロナの弊害～

コロナ感染の第８波が懸念されているが、今年末は数年ぶりの忘年会的な集まりが増えてきた。居酒屋の席で事業会社の方々に話を聞くと、出勤は増えているが、週の半分以上は未だに在宅ワークとなっているそうで、恐らく、コロナ禍以前のような状態に完全に戻ることはなそうだ。

年末年始を過ぎれば、新年度に向けて、新役員の選定になるそうだが、仕事ぶりは有能だが、コミュニケーションができない若手が増えすぎて、世代交代を進めることができないと悩んでいた。

コロナでリモートワークが進んだことで効率化が進んだが、その弊害は恐らくここから数年かけて表面化していくのだろう。

米ツイッターを買収した実業家のイーロン・マスク氏が大幅な人員整理を行ったことが話題になっていたが、これがメールで行われていることに改めて時代の流れを感じた。給料を直接手渡しで貰っていた時代を懐かしく感じているが、この先、入社から退職まで一度も出社することなく終わることも増えるのだろうと寂しさを感じた。



New product

カルビー　松本幸四郎さん監修

「堅あげポテト青じそ明太子味」全国発売

堅あげポテト青じそ明太子味

カルビー（２２２９）は噛むほどうまい！堅い食感が人気の「堅あげポテト」シリーズから新商品「堅あげポテト青じそ明太子味」を、１２月５日から全国発売（２０２３年２月下旬終売予定）する。

全国の「堅あげポテト」ファンで構成する「堅あげポテト応援部」と、「堅あげポテト」のイメージキャラクターで、同応援部の部長を務める歌舞伎俳優の松本幸四郎さんが監修した商品。開発にあたっては、まず２０２１年９月に応援部員と幸四郎さんから“「堅あげポテト」で食べたいニッポンの味”をテーマに味案を募集。集まった全７５３件のアイデアの中から３案に絞り込み、応援部員で決選投票を行った。その結果、１位に輝い「青じそ明太子味」を商品化した。

キリンHD　上質でこれしかないうまさ

麒麟特製皮ごとレモンサワー期間限定

「麒麟特製 皮ごとレモンサワー」

キリンホールディングス（２５０３）グループのキリンビールは、“麒麟が上質に仕立てた、これしかないうまさの特製サワー”をコンセプトとした「麒麟特製」ブランドから、レモン果皮由来のほろ苦さを楽しめる「麒麟特製 皮ごとレモンサワー（期間限定）」（３５０ｍｌ缶・５００ｍｌ缶）を１２月６日から全国発売する。

「麒麟特製」ブランドの特長である、複数の柑橘を１２時間以上煮詰める（特許出願中）ことで、奥行きのあるレモンのうまみを引き出した。また、レモン果皮をアルコールに漬け込んだ「ビターリキュール」で果皮のほろ苦さ由来の味の厚みを持たせた。

潮流

相場強弱はアップル次第

投資の神様が日本株を買う

marKet bAnk

１１月２３日のＳ＆Ｐ５００種は４０２７で終え、投資家の関心が高い２００日移動平均（４０５９）に近づいた。４月中旬に２００日移動平均を明確に下回って以降、終値での上抜けが視野に入るのは今回で３度目だ。４月下旬と８月に上抜けを試したものの、いずれも手前で跳ね返された。これまで上値抵抗線として意識されてきただけに、上回ることができれば相場の強気サインと受け取れる。

注目されるのはＧＡＦＡＭの動向だ。特に米株式市場で時価総額が最大のアップルだ。加重平均型のＳ＆Ｐ５００種への影響度が大きいアップルが上昇基調を強めれば、Ｓ＆Ｐ５００種は２００日移動平均を上抜けて強気相場持続となる。

一方、弱気派のゴールドマン・サックスのストラテジストは、２０２３年は今年より良い年になると期待している株式投資家は失望するだろうという。弱気相場は終わっていないとの見方だ。

金利のピークとリセッション（景気後退）を反映したバリュエーション低下が、持続的な株式相場回復が起こるには必要だと論じた。２３年末のＳ＆Ｐ５００種株価指数は４０００と予想。１年後も現在とほぼ変らないと見ている。世界の株式相場は１０月半ば以降に回復しているが上昇は持続しない。株価は通常、利益の伸びと経済の悪化が減速するまでは底から回復しないからだという。

強弱入り乱れる中、米著名投資家ウォーレン・バフェット氏が率いる投資会社は商社株を買い増ししている。歴史的な円安水準で割安感が高まった日本株を投資の神様が買い進めている。三菱商を６．５９％、三井物産を６．６２％、住友商を６．５７％、伊藤忠商事を６．２１％、丸紅を６．７５％まで保有比率を高めた。

バークシャーは５大商社株を最大９．９％まで買い増す可能性があると表明している。商社株を５％超保有していることがわかったのは２０２０年８月下旬。このときの円相場は１ドル＝１０５円程度だった。１ドル＝１４０円とすれば３割程度の円安・ドル高水準にある。ドル建ての日経平均は同期間で約１割下落した。海外勢から見れば日本株は買いやすくなった。将来、大規模金融緩和を続ける日銀の政策変更があれば、円高・ドル安が進んで海外投資家にとってドルベースで含み益が膨らむことになる。

潮流銘柄はＡｂａｌａｎｃｅ（３８５６）、アドバンスト・メディア（３７７３）、イーディーピー（７７９４）。

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第１回Ｓ１グランプリ」にて１万人超の参加者の中から優勝。２００２年にＮＨＫ番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では２０２２年１月の夕刊フジ主催の「株-１グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。ｈｔｔｐ://ｍａｒｋｅｔｂａｎｋ.ｊｐ

円高・ドル安進めば含み益

銀行株の上昇目立つ

相場は簡単に崩れない

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約３８３円高と反発、２週間ぶりに週足陽線となった。日経平均は２万８５００円を付けた後伸び悩んでいるが、ＴＯＰＩＸは８月の高値（２００６・９９ポイント）を抜いて年初来高値（１月５日の２０４２ポイント）も視野に入ってきた。

日経平均よりＴＯＰＩＸ型が買われるということは、グロース（成長）株よりバリュー（割安）株が買われているということだ。代表的な銀行株の上昇がＴＯＰＩＸの上昇を牽引している。

２２年４～９月期の上半期決算で業績の堅調が確認され、加えて足元のイールドカーブコントロール修正の観測が再び高まっており、金利上昇の恩恵を受ける銀行株が選別して先回り買いされているようだ。上場投信のＮＥＸＴＦＵＮＤＳ銀行は既に年初来高値を更新している。銀行株が強いときは筆者の経験則として相場は簡単に崩れない。

銀行株の上昇が株価を支える

今週は２日の米１１月雇用統計が発表されるが、インフレのピークアウト感が強まれば株価にはプラスに働こう。暗号資産取引所「ＦＴＸ」の破綻を受けても大きく下げなかった現在の株式市場は悪材料に対し耐性を持っており、好材料に反応しやすくなっている。

裏を返せばそれだけまだ市場に余剰資金があるということでもあり、株価上昇をあまり好まないＦＲＢにしてみればジレンマだとも言える。株価上昇のスピードが速いと影響力のある高官の発言で株価が調整場面も出てきそうである。まずは３０日のパウエル議長の講演は注目されるだろう。

今週は国内に於いて９月期の配当金の支払いが約３兆円予定されている。その資金の再投資も期待できるので堅調な動きを想定する。日経平均のチャートでは１０月３日の安値を起点として約９００円幅の帯の中で上昇トレンドを維持している。その帯の今週のレンジは２万８１００円～２万９０００円となる。また、転換線（２万８１２２円処）が強く意識されており、割り込んでも翌日には回復する強い展開である。

今週の上値メドは９月１３の窓埋め（２万８５３０円３６銭）、高値抜き（２万８７００円処）となろう。一方、下値は転換線、節目の２万８０００円、２５日移動平均線（２万７６５９円処）となろう。今週のレンジは２万７８００円～２万８８００円で堅調な動きを想定する。**（ハチロク）**

TOPIXの日足チャート

日経225先物の日足チャート

記者の視点

相場見通し

米雇用統計に関心

225出遅れ修正なるか？

11月第4週の東京市場は日経平均では24日に2万850円に乗せる場面があり、派手さはないが比較的底堅い動きになった。

国内では23日が勤労感謝の日で祝日、24日は感謝祭でニューヨーク市場も休場となり、ポジションを取り難い動きながら、注目された11月の連邦公開市場委員会（FOMC）議事録では多数の参加者が利上げペース減速が適切と示唆したことで、12月FOMCでは0・75%利上げの可能性が低下して0・5%になるといった見方が下支えした。これに歩調を合わせる形でドル／円は1ドル138円台まで円高が進展し、過度な円安懸念が後退したこともポジティブ要因となっている。

今週は感謝祭の休暇明けに自宅や職場に戻った人たちがオンラインショッピングをすることによって、消費を盛り上げるサイバーマンデーが28日に行われることから、引き続き米国では消費関連が注目されよう。その先は30日に米11月ADP雇用統計、12月1日に米ISM製造業指数、2日に米11月雇用統計が発表されることから、これら経済指標発表を前に一旦は様子見の展開になる可能性があろう。

指数については日経平均では8月の高値を更新していないが、TOPIXでは既に8月高値を突破し、1月5日の年初来高値2042ポイントに迫っている。グロース市場Core指数についても市場発足時に付けた4月高値1072・99ポイントが視野に入っている。TOPIXについては**三菱UFJフィナンシャル・グループ**（8306）など金融株が上昇が目立っており、グロースでは**メドレー**（4480）などの高値が目立った。

225構成銘柄の出遅れ修正に期待したい。

今週のスケジュール

- ・28日　米サイバーマンデー
- ・29日　10月失業率・有効求人倍率
  10月商業動態統計
  米11月CB消費者信頼感指数
- ・30日　10月鉱工業生産
  中国11月コンポジットPMI、中国11月製造業PMI、中国11月非製造業PMI
  米11月ADP雇用統計
  米10月JOLT求人件数
- ・1日　7-9月期法人企業統計
  11月自動車販売台数
  11月消費動向調査
  中国11月Caixin製造業PMI
  米10月個人所得・個人支出
  米11月ISM製造業景況指数
- ・2日　11月マネタリーベース
  米11月雇用統計
- ・4日　OPECプラス閣僚級会合
- ・5日　米11月ISM非製造業景況指数
- ・6日　10月家計調査
  米10月貿易収支
- ・7日　10月景気動向指数
  中国11月貿易収支
- ・8日　7-9月期GDP確定値
  11月景気ウォッチャー調査
- ・9日　11月マネーストック
  メジャーSQ算出日
  中国11月生産者物価、中国11月消費者物価
  米12月ミシガン大学消費者マインド指数

編集後記

早いもので週後半には師走相場に突入する。今年は世界的なインフレにウクライナ情勢も絡み、急ピッチの金融引き締めに見舞われる厳しい相場だった。半導体関連に代表されるグロース株は短期的なリバウンドはあっても戻り売りに押されて下値模索が続き、個別銘柄にはチャンスが少なかったと思う。ただ、インフレ高進に鈍化傾向が見え、悪い流れに変化が出てきた。

12月は餅つき相場とも言われ、上下に振れやすく個別株物色も活発になる。値の軽い中小型株で上手く波に乗っていきたい。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。